

ATIS 臨時総会・第 374 回例会報告

第 374 回例会はユニオンビル(富士通労働会館)会議室で開催し、参加者は約 70 名となりました。例会に先立ち臨時総会が開催され、パナソニック IP マネジメント株式会社殿が正会員として入会が承認されました。



視察企画について、その概要紹介、参加者募集、追加調査項目募集等が行われました。

次に富士通テクノロジーサーチ(株)吉田取締役によるシンポジウムが行われました。

最初に 2015 年に 80 周年を迎えた親会社である富士通(株)の沿革、事業概要および今後の経営・事業展開の基本的な方針を紹介頂きました。テクノロジーソリューションを核として、人、情報、インフラの「つながり」で人をエンパワーし、ビジネスと価値創造を推進するというものです。

知財戦略では、従来の特許活用に加え、新貢献機能として市場創出、エコシステム、イノベーション促進、オープンクローズな活動があることを紹介頂きました。その活動拠点は米国、中国、そして日本の重要な拠点として役割を担っている富士通テクノロジーサーチの紹介を頂きました。

さらに講師の専門分野であった富士通のハイエンドプロセッサに関する講義を頂きました。1950 年代のリレー式計算機からメインフレーム、UNIX コンピュータ、さらにスーパーコンピュータ「京」プロジェクトで使用されるプロセッサ開発にまつわる話で、講師が開発に打ち込んだ姿が伝わる内容でした。

次に賛助会員 5 社から新商品、特異商品のプレゼンテーションが行われました。

1 つ目は、(株)RWS グループ 南部氏 が種々の改善や機能が追加された「PatBase」による引用情報の活用について紹介しました。引用情報調査をサンプル事例で具体的なアウトプット紹介、引用エクスプローラの表示機能紹介、引用数を統計的に解析することで技術関心の状況が分かる事例など紹介がありました。

2 つ目は、独立行政法人科学技術振興機構 松邑氏 が JST 概要やミッション、J-GLOBAL とその新たな取組みについて紹介しました。J-GLOBAL が科学技術情報を領域横断的に



「つなぐ」役割を果たし、知の探索、新しい発想、シーズをつなげる機能を果たしています。JDreamⅢや J-PlatPat とのリンク、さらに関連の取組みとして、J-GLOBAL foresight 分析ツールβ版の可視化事例紹介、J-GLOBAL knowlege より機械可読で共有や連携を探索、RDF化、W3Cが規格化したメタデータ記述のフレームワークにも触れて頂きました。

3つ目は、日本パテントデータサービス(株)吉國氏がJPDS国際特許事務所で11月に開始した知財コンサルティング事業について紹介しました。事業展開では特許の有する接着剤効果という視点が重要であることを強調されました。現在、(1)地域経営と知財管理、地理的表示の意味、農水産業とジャストインタイム、(2)ものづくりの支援、(3)産学連携の支援(4)企業ニーズと専門家のマッチング、の4つの視点で展開しています。紹介された事例は氏の専門性と多様な経験に基づくことが基盤となったもので、現場ニーズとの繋がり、新たなビジネス展開の可能性を感じさせるものでした。

4つ目は、(株)発明通信社 中里さんの紹介です。同社が65周年を迎えた1年間を振り返り、HYPAT-i2発売、インド事務所年間2015、中国事務所年間2015等を紹介しました。今年が目玉であるHYPAT-i2の特徴は「人に優しい」をコンセプトとしてバージョンアップを図っており、検索画面(HYPAT検索、ライン検索)等、各種出力、評価情報を共有するプロジェクト機能の説明がありました。最後に恒例となった「特許手帳2016」を賞品にジャンケンが行われ盛り上がりました。

5つ目は、(株)レイテック 出口社長からのPAT-LIST-GLS、CN/WEB、PALMSのシステム紹介に続き、川崎氏が新しく開発したPAT-Valueasを紹介しました。同システムは、自社と他社が保有する特許の価値を比較評価するものです。単なる特許件数の分析だけでなく、個々の特許の競争力評価が含まれた分析ができます。デモにより紹介頂き、出願人別や出願時期での活動内容が見える化され、企業の強み弱みや特許価値を理解できる情報を提供しています。

例会後の懇親会は、忘年会を兼ねてホテル精養軒で開催しました。少し雰囲気が変わり、新会員やOBの参加を得て、一年間の振り返りや意見交換の輪がいくつもできて賑やかなものとなりました。